

No.	申請団体名	本拠地	活動対象地域	事業名称	事業概要
1	NPO法人みなび	札幌市	札幌市南区	ともに つながる・ひろがる みなび 就労プロジェクト事業	ひとり親家庭で子どもが不登校になった場合、親の就労が難しくなり、家計が圧迫されるケースは少なくありません。不登校の子のための居場所支援を実施している中で昨年度かこのような事例を保護者の問合せがあり、子どもが不登校になったがひとり親家庭の負担がなけりなれない子どもが（低年齢で、もしくは不安が強く）ひとりでも留守番が出来るなど、困難めめたケースの相談がありました。今回、このような状況に対応するため、子ども居場所支援と就労支援を組み合わせた支援の仕組み作りと就労場所を作りまし。①当法人の居場所支援事業で働きながら子どもも一緒に過ごすことが出来る支援②当法人フードバンク事業に子どもを連れて出勤できる職場にする支援を実施し、当事業所の既存の居場所子どもは施設内で安心して過ごしながら学びや遊びの支援を受け、保護者は施設内で就労でき、子どもを見守りながら働ける場を提供します。③不登校の子を持つひとり親家庭等への食品配布（経済的支援）をします。以上、フードバンク、子どもの居場所、就労支援を一体化することでひとり親家庭の経済的、精神的にも不安やストレスの負担を軽減するだけでなく、多面的な社会課題の対応が可能になります。空間に潜めるためには、自治体・他のNPO・企業の協力が必要となりますが、地域に根差した支援モデルとして大きな可能性があると考えます。☑
2	いかすい	上富良野町	空知郡上富良野町 また、その近隣地域 (中富良野町・富良野市)	保護者の負担軽減を可能とする相談と 交流事業	地域における不登校は、社会参加や学習機会の減少を招き、深刻な課題となっています。行政による支援センター設置など、官民連携の動きが進む一方で、不登校の背景は家庭環境など複雑化しており、個別支援の必要性が高まっています。当団体は、複雑化する不登校問題に対し、以下の3つの柱で支援を行い孤立防止に努めます。 1.保護者負担軽減: 送迎支援など、子どもの「今」に対応したサポートで保護者の負担を軽減します。 2.交流・相談支援: 家庭同士の交流会や個別相談を通して、地域で孤立しないようネットワークを構築し、不安に寄り添います。 3.啓蒙活動: 保護者や関係者や地域住民と共に、不登校への理解を深め、地域全体で支える体制づくりを目指します。 私たちは、子どもと密着し寄り添い、地域全体で支える体制づくりを目指します。
3	一般社団法人ユアセル	札幌市	北海道札幌市	不登校児の保護者の居場所づくりおよび 個別の就労サポート	本事業は不登校の子を持つ保護者を中心に働く保護者の利用できる coworkingスペースを開発し、専門職による心理サポートおよび、多様な働き方に関する情報提供を行うことで、孤立しがちな保護者の心面・および経済面を包括的にサポートし、将来への展望を描けることを目指す。事業内容は以下とし、 ①保護者の居場所（カフェ・coworking）【週2回】 リモートワーク、情報交換や悩み相談ができる空間に同じ空間には、子ども達も過ごせるフリースペースを用意する。 ②不登校の親の会【月2回】 2024年より定期開催していた不登校の子どもを持つ保護者を対象とした交流会を開催。 ③専門職による定期的な相談面談【月4回】 【心理的サポート】公認心理師や保健師による定期的な面談を実施し、子どもの現状や将来の不安を傾聴する。必要に応じて情報共有を行う。 【経済的サポート】個別の職業相談を行い、情報提供を行う。また企業とのマッチング、職場開拓を行う。 ④講演会の開催【年1回】 不登校支援専門家を招き、不登校経験についてや子供との関わり方の講演を企業や保護者向けに開催する。 ⑤フリースクール・企業合同説明会【年1回】
4	株式会社すみか	札幌市	北海道	支援ネットワーク形成による包括的 キャリア支援事業～不登校の子を持つ 保護者へのメンタルケア・情報提供・ 調査研究を柱とする持続可能な支援 （まるっとサポート）～	本事業の目的は、不登校の子どもとその保護者の「孤立」を防ぎ、当事者が社会とつながり自分らしく生きられるよう支援をすることである。本事業は、多様な団体や個人と連携することで支援ネットワークを形成し、不登校の子を持つ保護者への持続可能で包括的なメンタルケア・キャリア支援を行なう。そのため、助成期間内で新たにコンソーシアム組織として「一般社団法人まるっとサポート（仮称）」を設立し、継続的な支援の実現をめざす。 事業は大きく4つの部門から成る。「①保護者支援」では、親の会によるメンタルケア、親子の孤立を防ぐ情報提供、親の会会上げサポートを行う。「②居場所・コンシェルジュ」では、不登校の子どもと保護者の居場所づくり、専門家や支援者によるオンライン相談体制の仕組みづくりを行う。「③研修・啓発」では、保護者向けの学習会の開催、学校教員向けの研修の開催、広く市民を対象とした啓発活動を行う。「④調査研究」では、より良い事業の実施に向け調査研究に基づき評価及び改善の提案を行なう。 本事業は、次の3団体によるコラボレーション体制で実施する。「不登校を語る親カフェボレバ（不登校の子を持つ保護者の会）」「株式会社すみか（産官学連携をコーディネートする支援事業団体）」「MLA実践交流・勉強会（学校教員で構成する教育研修団体）」。また、さまざまな分野の協力者と連携し支援ネットワークの形成を目指す。
5	NPO法人あさひかわナースハロー	旭川市	旭川市およびその近 郊	不登校児の保護者の心理的サポート～ 保護者ニーズを明らかにして経済的 支援へとつなぐ～	専門員によるカウンセリングや保護者同士が気軽に交流できる場を設け、悩みを共有しながらの負担を軽減する。また、不登校の子どもをもつ当事者が相談に応じれる窓口として、不登校支援者の困らふらふとの連携も強化し、保護者支援の安定した基盤をつくる。 さらに経済的な不安を抱える保護者への就労へのニーズを把握し、必要に応じてキャリアコンサルタントにつなぐ支援も行う。さらに、保護者が安心して過ごせる場として、食事を一緒に囲んだり、クッキングや創作活動を行なったりする機会を提供する。ただ、話をするだけでなく、ともに手を動かし、同じ時間を過ごすことで、自然と心はほぐれ、新たなつながりが生まれることを目指す。子どもに対しては、フリースクール「ひなたぼっこ」を運営し、学習支援や創造的な活動動士に自信を育む機会を提供する。この事業を通して、不登校の子どもだけでなく、その保護者が安心して自分の未来を歩める環境を整えることを目指す。
6	NPO法人みんなの	砂川氏	砂川市近郊	地域でつながりあう不登校児童の家族 支援	北海道砂川市の子も若者を中心とした地域の居場所「みんなの秘密基地」で、午前から放課後までは無料のフリースクールを実施。 ・食事支援：希望者は調理体験もしながら無料で昼食を提供。月に2度の土曜と長期休暇中の子ども食堂もあり。 ・相談支援＆ピアサポート＆保護者ポータル：未だに子ども保護者も「つながるお茶会」という親の会を2023年に発足。月に2回の対面話話とLINEグループコミュニケーションの定期的なピアサポートを実施中。また不登校と重なるケースが非常に多い発達障害に關しても、2ヶ月に1回程度、市役所の福祉課を通して「ペアレンディング」を派遣してもらいグループ相談会を実施。今後は、療育や相談と医療機関、学校対応、進学、就職などに関するポータルサイトを構築し困り事解決のための情報ポータルサイトを構築。 ・経済的支援：不登校に伴い就労に支障をきたす保護者は、フリースクールの有償ボランティアとしてスタッフ参加も可能（調理、掃除、事務作業など）。地域での助け合いの一環として、日用品学用品食材などを自由に持ち帰れるパントリーコーナーもあり。 ・就労支援：地元企業に相談しながら、時間的な条件が合う、または在宅でもできる仕事の就労支援を実施。その仕事場と通信環境と秘密基地の利用も可能。また作業机の設置支援として、希望者も提供している作業スペースの利用も可能。
7	NPO法人メンタルコミュニケーション ショリサーチ	東京都江東区	北海道内	仕事を休まず自宅相談できるアウト リーチ型支援	北海道内での不登校支援の課題として、身近な相談先であるべき各学校のスクールカウンセラーの配置時間数が少なく、さらに地域によっては臨床心理士や公認心理師の専門資格を有しない人材を配置せざるを得ない状況がある。そして最も重大な課題は、悩みを抱えていても平日や土日専門員へ相談ができない点である。そのため学校と有機的に連携することが難しく、安心して子どもを家庭で支えることができず、家庭の孤立につながってまいり現状がある。とりわけ全国に比べて不登校児童生徒数が多い北海道においては喫緊の課題である。 そこで本事業では柱となる以下の4つの活動を運動的に展開し、家庭と学校が子どもを見守り、対応していく体制作りを支援していく。①：オンラインで土日や平日夜間にも対応した臨床心理士や公認心理師による相談と心理教育による相談支援（個別相談とグループセッション）②：相談支援でのアセスメントに基づいたうえで行う学校と学校等との連携支援。③：不登校状態の子どもとの肯定的関わりを増やすための家庭内レクリエーション型の支援。④：関係者や地域住民の不登校理解を広げるための啓発活動支援。 これらの活動を通して、居住地や就労形態に関わらず、不登校など子どもの悩みを抱える親が相談しやすい仕組みの先行実践の提示を目指す。得意次第には、自治体から支援団体に相談支援の一環を委託し無償での派遣が期待できることが期待される。
8	NPO法人学習支援ループス	釧路市	北海道釧路市近郊地 域	親子で『学ぶ』『つながる』そして 『広がる』場所づくり	親自身のスキルアップと就労支援を通じて、家庭の安定と親子の成長を支えます。具体的には、企業インターンを含む実践的な職業訓練として、以下の講座を実施します。 CAD講座（設計・製図の基礎習得） 動画編集者講座（クリエイティブ業務への参入支援） 経理事務講座（在宅でも可能な事務スキルの習得） FP講座（金融リテラシー向上と副業支援） プログラミング講座（ITスキルを活かした就労機会の提供） これに加え、ピアサポートの場づくりやペアレンティングの支援を実施し、親同士が悩みを共有し、学び合える環境を整えます。単なる職業訓練にとどまらず、親子の相互理解を促すことで、家庭と社会の両面で持続的な支援を行います。
9	NPO法人北見 サポートセン ター	北見市	北見市、美幌町	ハッピーチャレンジ伴走支援事業	○事業背景 経済環境が急速に変化する中、その影響を受ける不登校の子を抱える保護者への支援体制構築が求められている。 ○実施内容 1. 就労支援研修 ①時 期：2025年7月～12月（北見・美幌会場それぞれ4回 計8回） ②対象者：北見市、美幌町の不登校児童、行き滞り児童を抱えた保護者 ③場 所：NPO法人耳をすませば（北見会場）、美幌町民会館（美幌会場） ④講 師：オフィスプロアス代表山田佳代子（コミュニケーション・経営コンサルタント） ⑤内 容：就労スキル・知識を保護者間での話し合いや講師の助言により得て、同僚に悩む保護者との交流を通して、視野を広め、知識を深める。 2. 個別相談会 ①時期～④講師までは就労支援研修と同じ ⑤内 容：保護者の心理的負担軽減のため相談を行い、本人の希望や適性、家庭環境、子どもの状況に応じた就労スタイルを考える。 3. 不登校児支援施設及び子どもの居場所紹介 ①時期～③場所までは同じ ④講 師：松原正彦（フリースクール代表） ⑤内 容：北見市、美幌町内で活動するフリースクールでの活動内容等について説明、質疑応答、意見交換を実施。 ○事業目標
10	労働者協同組合 府フラスコ コーレ	富良野市	富良野市	不登校の子と親の「自分らしさ」を地 域ぐるみで応援する	フラスココーレは、農業・観光産業などの基幹産業をはじめ多様な職業背景をもった支援者たちが集い、地域自然環境や人的資源を生かし「すべての子どもたちの学習や体験の機会」を保障する地域ネット型フリースクール事業を中心に2023年10月労働者協同組合として発足した。不登校によって学校や地域社会から孤立し地域社会から排除されていた不登校の子どもたちと保護者の出会いを演出し、人によって閉じられたつながりを人々の手によって開いていく地域社会をめざしている。不登校の子どもたちや保護者が生き場を失いかけたとしても、このフラスココーレで出会った地域の人々がその子たちや家庭を受けとめ「学び・遊び・対話・働く」場と再スタートまでの癒しの場を提供する。それによって、社会からリタイヤすることなく後に続く不登校生たちにも「将来を描ける」という希望を地域全体で実現したい。☑
11	NPO法人楽園プロジェクト	札幌市	札幌市白石区、豊平 区を中心とした札幌 市全域。相談があれば 他地域も対応	不登校の悩みや不安を包括的に支える 「解決型相談室と地域食堂」～親も子 も安心して暮らせる地域を目指して～	不登校の子もを持つ保護者の心理面や経済面、不登校の問題解決を図る拠点「find one's Place」を設置する。 ①相談窓口 ・専門スタッフによる包括的な相談対応 ・分身ロボット「OnHime」による「親も子も相談したくなる窓口」 ②就労支援/社会参加のきっかけ ・就労体験、在宅就労が雇用に向けた伴走支援 ・雇用後の見守り ③経済的サポート ・フードドライブによる物資提供 ④の「居場所」にて食事提供（相談窓口と併設した地域食堂機能を構築） ⑤居場所づくり ・ピアサポートや安心して暮らせる環境、コミュニティ構築 ・子どもの学びの場、お手伝い体験 ・保護者の会 ①～⑤を通して ・広報活動 ・当事者環境への働きかけ、アドボカシー ・実績調査 当事者が未来への希望を持って自立する事。
12	一般社団法人おやこみらい	札幌市	札幌市	不登校親子の居場所×ワーキングプロ ジェクト	不登校の子とふたりきりで過ごす時間が増えることで、親子関係が緊迫することがあります。学校に行かない時間の生活意欲、活動意欲を支えながら、親の働く活動支援も行います。親が健康的に子育てを持続できるよう、親の活躍の場をつくり働く機会を提供し経済的支援を行います。 親子運動、親子調理、親の心理士茶話会がサポート、こどもの体験活動、こどもの学習支援、探求活動、訪問支援（親子向け・物資提供支援）保護者が活動スタッフとして働く、保護者が得意なスキルを活かして働く姿をこどもに見せる活動提供
13	NPO法人ミラコ	豊富町	道北宗谷地域	親子サポートな	現在のミラコハウス開館時間を延長し、通学に課題のある親子がより安心して過ごせる場所をつくる。児童生徒には安心して過ごせる環境と受け入れられたは学習を、保護者には孤立からの開放、生活や就労など然るべき支援への繋ぎ、また地域の方たちと共に過ごす時間の中で信頼関係を構築させていく場とする。開館時間を延長することにより、他事業利用者や食事の販売をし保護者の皆さんにもボランティアに参加してもらうことで社会復帰の足掛かりに、売り上げを次年度以降の親子サポの展開へと期待している。地元小学生とは生きにくさを持つ子育てを親の会を月2回開催。中学校とは教員が定期的に足を運んでくださり対話をしている（個人的に親子で遊びに来ることもあり）。高校とはボランティア部と連携し年に3～5回共に活動し子どもたちのためのクリスマス会などを活動している。学校へ通っていない子どもも親も当たり前のように日常の輪に入るといふことは主眼点にならな形をつくり継続していく。